

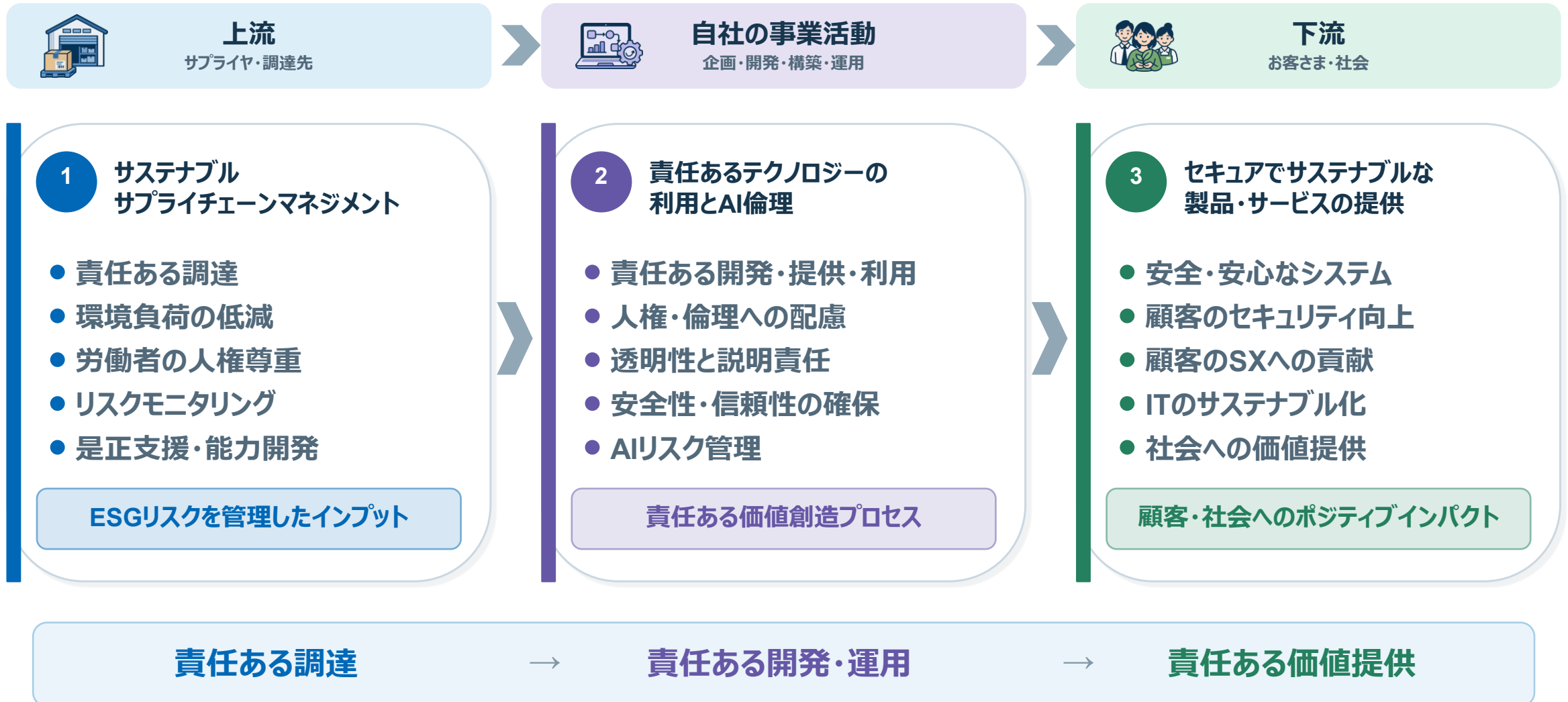
物理的リスクとVCM

2026年10月2日

NTTデータグループ
サステナビリティ経営推進本部
Sustainability Engagement Office
シニア・スペシャリスト 金田晃一

NTTデータグループ：責任あるバリューチェーンマネジメント（VCM）

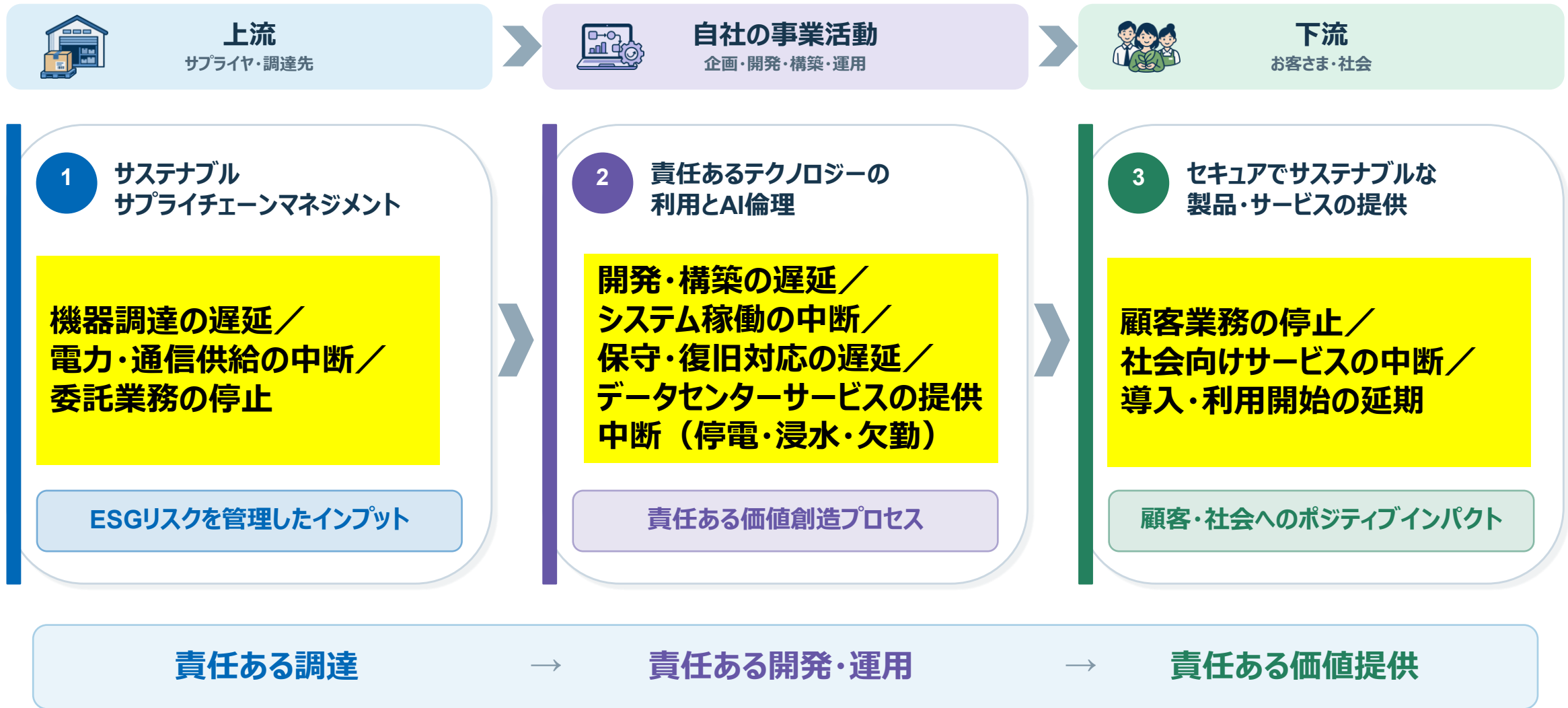
上流の責任ある調達から、自社の開発・運用、顧客・社会への価値提供までを一貫して管理



物理的リスクによる被害が深刻化すると・・・

＊VCMでは、この他に地政学リスク、規制リスクも検討

上流の責任ある調達から、自社の開発・運用、顧客・社会への価値提供までを一貫して管理



本日のテーマ： レジリエンスの構築・維持における主要な推進要素



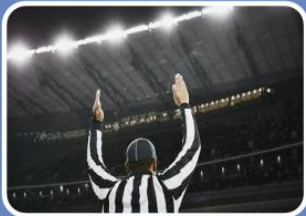
①ガバナンス

物理的リスクを部門横断的に管理し、それを意思決定プロセスや中核的な事業計画に統合しているか？



②データとツール

物理的リスクに対応し、投資の意思決定を改善するために必要なデータとツールを持っているか？



③能力

健全な物理的リスク分析を行い、レジリエンス戦略を策定するために、適切な能力を持ち、活用しているか？

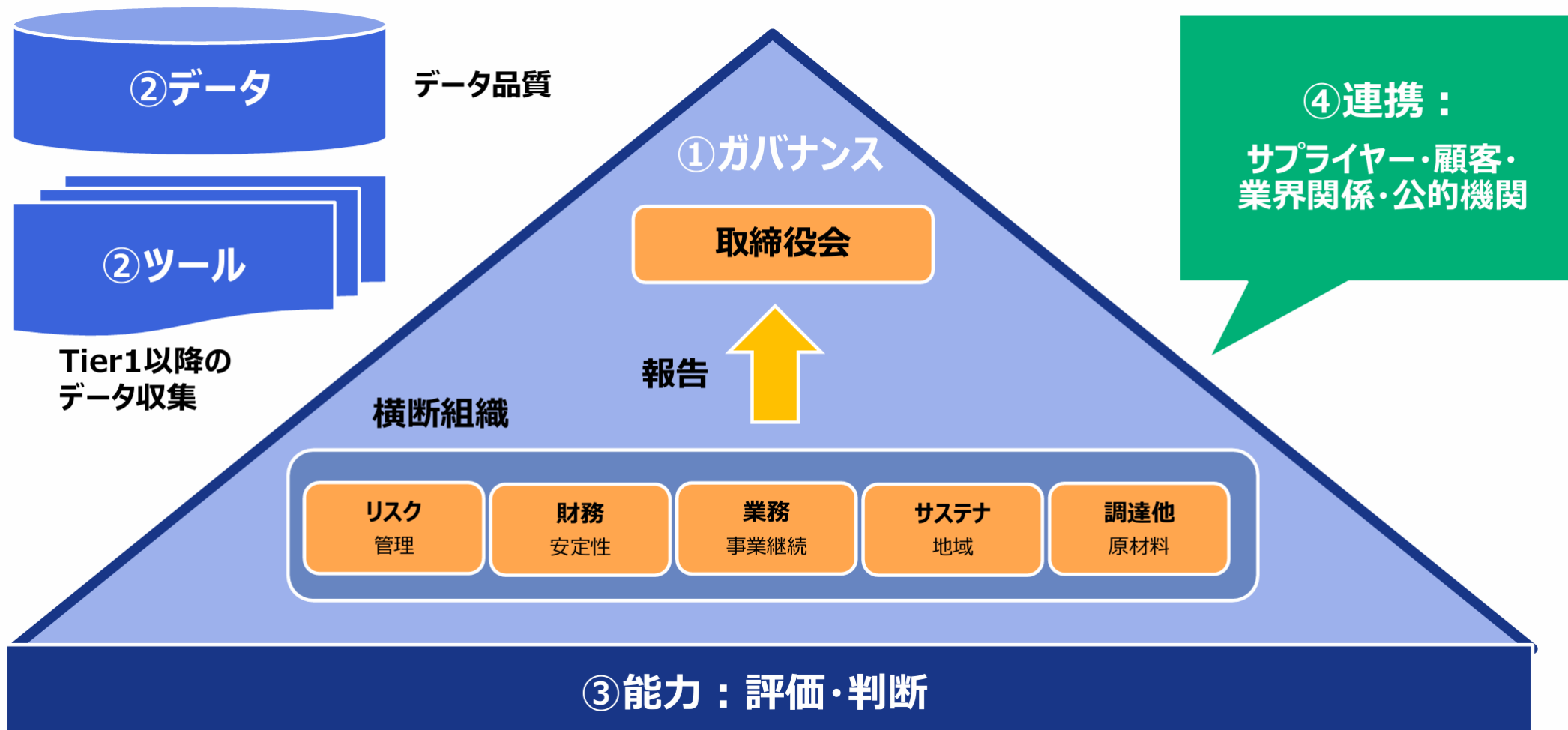


④連携

物理的リスクをより良く評価し、共同でレジリエンス対策を計画・実行するために、バリューチェーンパートナーとどの程度連携しているか？

図にしてみると・・・

特に①と④を中心に上げる



(出典：金田作成)

サステナビリティ経営推進の12ステップモデル

パフォーマンス戦略

コミュニケーション戦略

マネジメント戦略

ルールメイキングコミュニティ、インフルエンサー、個別国連機関・政府・NGOへの働きかけ

パーパス・ミッション・ビジョン・マテリアリティ・KGI・KPI・具体的活動の設定や見直し

社内イントラ構築、社内セミナー、社内研修、体験型ボランティア

①
社外からの情報収集

②
事業計画策定
(P)

③
社内への情報発信
(社員浸透)

⑤
製品・サービス提供
活動
CSV

各種社会・環境課題解決型ビジネス

⑪
外部評価・改善
(A)

ステークホルダー・
ライツホルダー評価

⑫
サステナビリティ・ト
ランスフォーメーション
(SX)

中計・M&A等のタイミングで、或いは、それを待たずに 社会と企業の持続可能性向上を目指した
経営の在り方自体をダイナミックに刷新 CSV、CSR、フィランソピー活動のアラインメント

④
実践活動
(D)

⑥
事業プロセス改善
活動
CSR

人権、労働、環境、取引先課題、消費者課題、法令順守、リスク管理、ガバナンス、情報開示

⑩
社外への情報発信

社外Webサイト・SNS・各種報告書・広告
イベント登壇での発信、アンケート対応、法定開示

⑨
内部評価
(C)

内部監査・事業計画とのギャップ分析、
評価体の整理

⑧
社内からの情報収集

漏れの無い活動情報の収集、
収集システムの構築

⑦
社会貢献活動
フィランソピー

寄付・寄贈・プロボノ・ボランティア
自主プログラム・財団助成

「物理的リスクへの対応」の位置づけ

パフォーマンス戦略

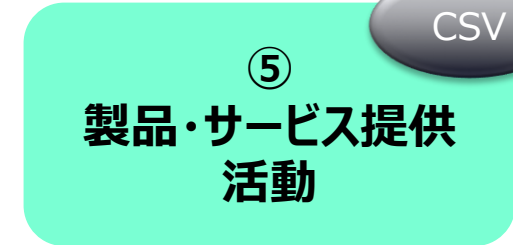
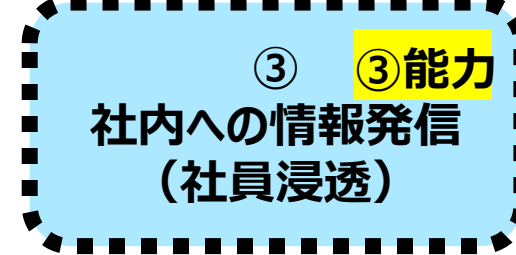
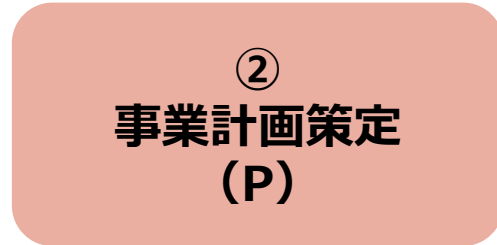
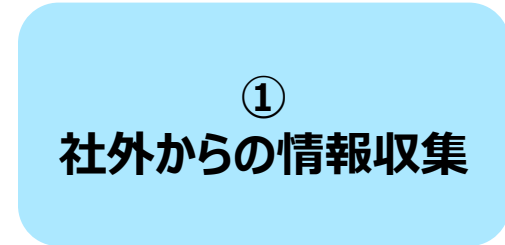
コミュニケーション戦略

マネジメント戦略

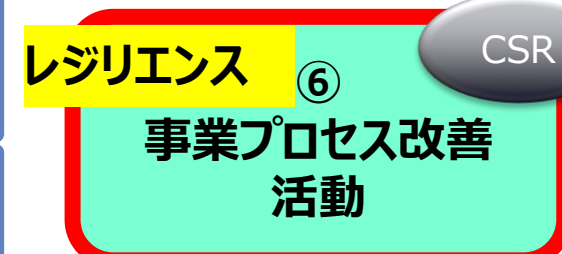
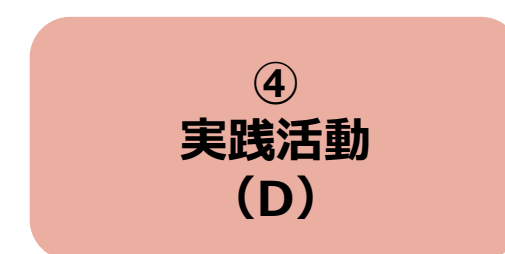
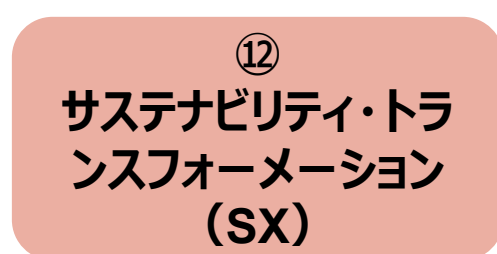
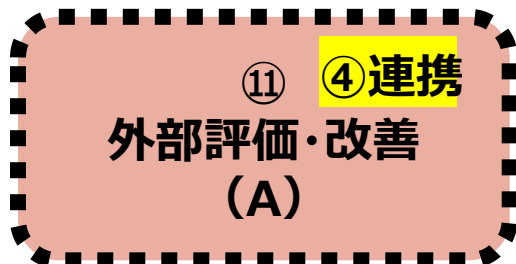
ルールメイキングコミュニティ、インフルエンサー、個別国連機関・政府・NGOへの働きかけ

パーパス・ミッション・ビジョン・マテリアリティ・KGI・KPI・具体的活動の設定や見直し

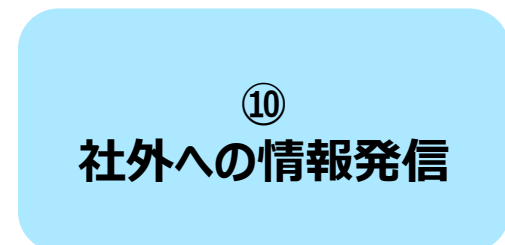
社内イントラ構築、社内セミナー、社内研修、体験型ボランティア



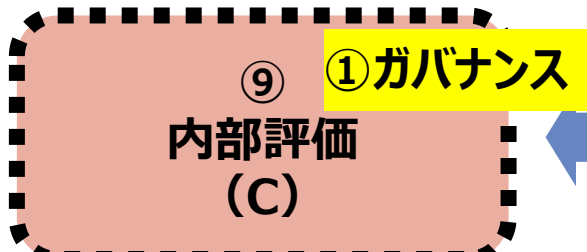
各種社会・環境課題解決型ビジネス



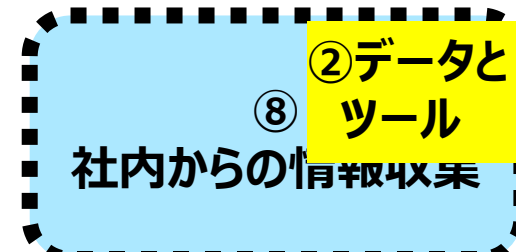
人権、労働、環境、取引先課題、消費者課題、法令順守、リスク管理、ガバナンス、情報開示



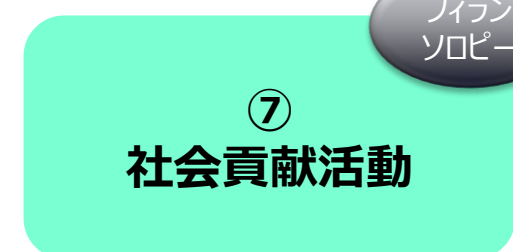
社外Webサイト・SNS・各種報告書・広告イベント登壇での発信、アンケート対応、法定開示



内部監査・事業計画とのギャップ分析、評価体の整理



漏れの無い活動情報の収集、収集システムの構築



寄付・寄贈・プロボノ・ボランティア
自主プログラム・財団助成

CSV

CSR

フィランソピー

